報道資料

SoftBank Technology

2018年4月23日

AIを活用する独自のログ分析プラットフォームを構築、自社SOCへ導入

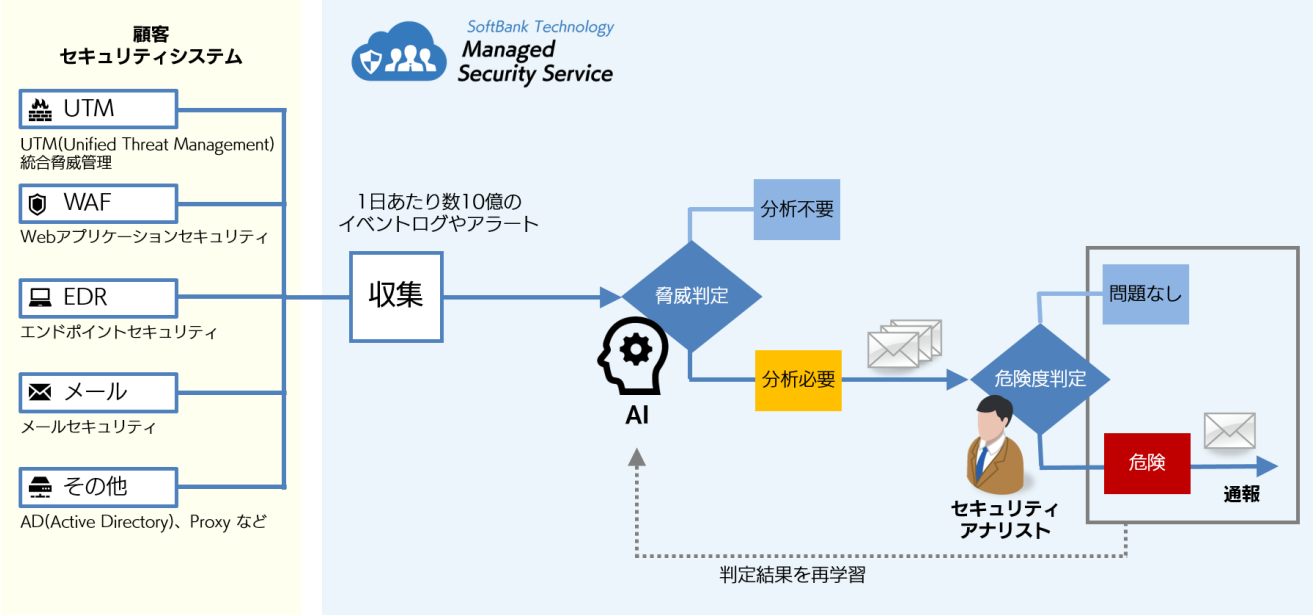
～アナリストの分析高度化と脅威検知スピードの向上でセキュリティ監視サービスを強化～

ソフトバンク・テクノロジー株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：阿多 親市、以下SBT）は、セキュリティ脅威検知のAIモデルを開発し、独自のログ分析プラットフォームを構築したことをお知らせします。

ログ分析プラットフォームは、5月から自社SOC（Security Operation Center：セキュリティ監視センター）へ導入し、顧客のセキュリティシステムを24時間365日運用・監視するサービス「マネージド・セキュリティ・サービス（Managed Security Service、以下MSS）」にて利用を開始します。

AIはセキュリティアナリストの経験と知識をモデル化したもので、判定結果の再学習により、日々進化する脅威情報を習得して精度を上げ、危険度の高いログやアラートの抽出を効率化していきます。これにより**セキュリティアナリストは高度な分析に専念し、スピーディーな脅威検出ときめ細かなアドバイス**を実現します。

また、ログ分析プラットフォームはMicrosoft Azure上で構築されており、データ容量や分析処理の増加にも柔軟にスケールでき、監視対象追加などの顧客要望に迅速な対応が可能となります。



AI導入後の脅威検知イメージ

SBTは今後も「セキュリティ」「データアナリティクス」「クラウド」各領域の強みを生かし、高品質のサービス提供を目指してまいります。

■マネージド・セキュリティ・サービスの詳細はこちらをご覧ください。

https://www.softbanktech.jp/service/list/managed-security-service/

報道関係者様向け お問い合わせ窓口	ソフトバンク・テクノロジー株式会社 コーポレートコミュニケーショングループ（與儀）
	TEL：03-6892-3063 / Email：sbt-pr@tech.softbank.co.jp

※本リリースに記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。